第一回

Sport in Life Award

受賞プロジェクト事例のご紹介

Sport in Life 2021 大賞（最優秀賞）

企業部門　優秀賞

団体部門　優秀賞

自治体部門　優秀賞

スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

第一回「Sport in Lifeアワード」

Sport in Life 運営事務局

詳しくはSport in Life公式サイトをご覧ください。
https://sportinlife.go.jp/

「Sport in Lifeアワード」とは

スポーツ庁では、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現のため、
「Sport in Lifeプロジェクト」として、さまざまな取組を行っています。
国民全体で「スポーツ」に親しみ、日常生活の中で「スポーツ」の習慣づくりを広げていくことは、
国民全体の健康寿命の延伸にも寄与するものとして、今日強く期待されており、
スポーツ庁の「第2期スポーツ基本計画」(平成29年3月、文部科学省策定)では、成人の週1回以上の
スポーツ実施率を65%程度まで引き上げることを目標の一つとして掲げております。
そこで、令和3年度に、スポーツ人口の拡大に資する優れた取組を募集し、表彰する
「Sport in Lifeアワード」を創設しました。
本アワードで受賞された取組を起点に、広く社会へ発信することで、より多くの国民のスポーツ参加の
機会を創出し、Sport in Life(生活の中にスポーツを)の実現を目指します。

Sport
in Life
Award

第一回「Sport in Lifeアワード」について

取組募集アクション

子供向けアクション
空き地や生活道路など、子供が身近な場所で自由に運動遊びをする環境を整備した。
親子で一緒にスポーツを楽しむ取組が広がった。

中高生向けアクション
子供や若者が、地元でスポーツをする・はじめる機会につながった。SNS やゲームなどをきっかけに スポーツにつなげる取組を行った。

ビジネスパーソン向けアクション
仕事や通勤をしながら、ちょっとした工夫でできる運動を推進した。子供をきっかけに、親世代のスポーツ実施が促進された。

高齢者/障害者向けアクション
誰もが一緒に楽しめる、自分に合わせて楽しめるスポーツを実施した。スポーツを通じて「地域デビュー」することが促進された。

女性向けアクション
日常生活、動作の中で、いつの間にか運動をしている 仕掛けをつくった。スポーツの楽しさ、カッコよさなどを 入口にスポーツ実施につなげた。

実施概要

主　　催	スポーツ庁(Sport in Life プロジェクト)
実施期間	≪応募受付：企業部門・団体部門≫令和３年９月15日(水)～11月12日(金) ≪応募受付：自治体部門≫令和３年９月15日(水)～11月19日(金) ≪表彰式≫令和4年3月1日(火) 会場:日比谷国際ビルコンファレンススクエア／オンライン
応募対象	地方公共団体･関連団体、スポーツ関連団体(スポーツに関する活動を主に実施している団体／競技団体など)、経済団体、学校･教育団体、医療福祉団体、民間企業など。
募集部門	□企業部門　□団体部門　□自治体部門
表　　彰	・Sport in Life 2021 大賞（最優秀賞）　1件 ・Sport in Life 2021 企業部門 優秀賞　4件 ・Sport in Life 2021 団体部門 優秀賞　3件 ・Sport in Life 2021 自治体部門 優秀賞　4件

	評価視点	具体的なポイント
5つの評価視点	Sport in Life 理念	（1）Sport in Life の理念を理解し、スポーツ参画人口の増加が期待できるか？
	スポーツ実施者の増加	（2）スポーツを行うきっかけづくりにつながっているか？
	スポーツ習慣化の推進	（3）スポーツを行う習慣化につながっているか？
	スポーツへの親しみやすさ	（4）スポーツへの親しみやすさにつながっているか？
	スポーツの裾野の広がりやすさ	（5）企業・団体・自治体のモデルとして他の地域や属性などへの広がりが期待できるか？

第一回「Sport in Lifeアワード」審査員

北京・ロンドンオリンピック競泳日本代表
スポーツ健康科学博士
一般社団法人スポーツを止めるな理事
1252プロジェクトプロジェクリーダー
伊藤 華英

公益財団法人 明治安田厚生事業団
体力医学研究所・上席研究員
甲斐 裕子

株式会社NTTデータ経営研究所
情報戦略事業本部アソシエイトパートナー
Sports-Tech & Business Lab事務局長
河本 敏夫

岡山大学大学院教育学研究科 准教授
合同会社Sports Drive 代表社員
高岡 敦史

(公財)日本財団パラリンピックサポートセンター
推進戦略部プロジェクトマネージャー
射撃パラリンピアン
田口 亜希

東海大学
体育学研究科長 教授
萩 裕美子

大阪体育大学
学長
原田 宗彦

(敬称略・五十音順)

アワードに寄せて

スポーツ庁長官
室伏 広治

スポーツを気楽に、そして自然と行うことができるような環境や、日常生活でスポーツが習慣化され、それぞれが豊かな人生を歩めるような社会を目指し“Sport in Lifeプロジェクト”に取り組んでいます。

令和3年度に新たに創設された事業“Sport in Lifeアワード”では、毎日の生活の中に、スポーツやエクササイズ等を行う環境が自然と取り組まれている、”Sport in Life” を実現するために、スポーツ人口の拡大に資する優れた取組を表彰します。本アワードで受賞された取組を、広く社会へ発信することで、より多くの、国民のスポーツ参加の機会を創出することを目的としています。

第一回目となる今年度は、9月15日から11月19日までの応募期間の中で、合計85件の応募をいただきました。その中から12件の受賞を決定しました。受賞された皆様、この度は本当におめでとうございます。

2021年から2022年にかけて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会や北京オリンピック・パラリンピック競技大会など国際的スポーツイベントが続き、感動を覚えた方々も多いと思います。この感動を「自らスポーツをする」という意識へ、スポーツ庁として皆様とともにつなげていきたいと考えています。

目次

Sport in Life 2021 大賞（最優秀賞）

05　渋谷どこでも運動場プロジェクト …… 一般社団法人TOKYO PLAY

企業部門　優秀賞

07　biima sports（ビーマスポーツ） …… 株式会社biima
08　第1回水戸ホーリーホックグラウンドゴルフ大会 …… 株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック
09　7ー9PARK …… stadiums株式会社
10　職場からゼロ分!勤務中の本格ヨガで体も頭も心もスッキリ! …… 東京西サトー製品販売株式会社

団体部門　優秀賞

11　誰でもいつでも個人で始めやすい野球環境への取組 …… NPO法人北摂ベースボールアカデミー
12　パトラン（パトロールランニング） …… 認定NPO法人改革プロジェクト
13　神奈川県逗子市における子どもから大人まで楽しめる …… FUJIO PROJECT
ご当地スポーツとしてのトレイルランニング
～環境教育との融合を通じた持続可能なアウトドアスポーツ普及への取り組み～

自治体部門　優秀賞

14　あつぎサーチウォークチャレンジ …… 神奈川県厚木市教育委員会社会教育部スポーツ推進課
地区体育振興会委員研修会（サーチウォーク）
15　神奈川県藤沢市における市民全体の身体活動促進プロジェクト「ふじさわプラス・テン」 …… 神奈川県藤沢市
16　パラウェーブNAGANOプロジェクト …… 長野県
～（公財）日本財団パラリンピックサポートセンターと協働で取組む長野県発の未来社会プロジェクト～
17　街なかピンポン …… 福井県交流文化部文化・スポーツ局スポーツ課

プロジェクト

渋谷どこでも運動場プロジェクト

受賞者

一般社団法人TOKYO PLAY

所在地 東京都渋谷区神山町5-3 並木ビル3F　**電話** 080-4779-3714
URL https://tokyoplay.jp/　**メールアドレス** info@tokyoplay.jp

取組の経緯

「みち×あそび」から「思わず身体を動かしたくなる街」へ

TOKYO PLAYでは2016年度より都内において、誰もが通る身近な「みち」(道路、緑道、商店街などの人の通るみち)にて、大人も子どもも誰もが「あそぶ」ことを通して、そこに暮らすみんなが出会い楽しむ、それをきっかけとしたコミュニティづくりを応援する「とうきょうご近所みちあそびプロジェクト」を展開していた。

一方、渋谷区では、基本構想の「健康・スポーツ」分野において「思わず身体を動かしたくなる街へ」を掲げ、運動の習慣が人々の生活の一部になり、誰もが楽しみながら健康を保っていけるように、渋谷区自身を「15平方キロメートルの運動場」と捉え、日常的な運動も、楽しみで行うスポーツも、すべてが暮らしに溶け込むようなまちづくりを進めていた。そのまちづくりの手立てとして、TOKYO PLAYのプロジェクトに関心を持った渋谷区教育委員会スポーツ振興課（当時）より相談を受け、渋谷区独自の事業として企画提案を行い採用された。

事業の概要と特徴

サービスを提供するのではなく、自らやりたいという人を見つけ応援する

本事業は「思わず身体を動かしたくなる街へ」の実現に向けて、くらしに身近な道路や緑道、公園など人が行き交う場所で、スポーツや遊びを通して体を動かしながら、同じ地域に住んでいる人同士がつながることのできる機会づくりを応援するものである。2018年度からTOKYO PLAYが渋谷区とともに、企画・運営を行なっている。また、区内で長年冒険遊び場づくりを中心に子どもに関する活動をしており、多くのキーマンとのつながりを持つ「渋谷の遊び場を考える会」に参画してもらっている。

具体的には区民や団体・企業などの実施希望者を発掘し、関係者との調整や公共空間の使用申請、イベント当日の内容検討、当日の運営までをTOKYO PLAYが伴走・支援することで、本プロジェクトを主体的に実施する人々を区内全域に増やしていく手法をとっている。これまでに町会、区民活動団体、子育てグループ、スポーツクラブなどの住民組織に加えて、渋谷区内の企業や渋谷区をホームタウンとするプロスポーツチームが主催や共催という形で実施してきた。また、事業を周知する目的で、区や企業が主催するイベントにおいて、あるいはまだ実施主体が現れていない地区において、キャラバンと銘打ってTOKYO PLAYが主催する場合もある。

イベント当日は参加費なし、申込不要、出入り自由で、ボッチャ、スポーツ輪投げ、ストラックアウト、バドミントン、卓球、なわとび、フラフープなど、様々なスポーツや運動の器具を配置し、たまたま通りがかった人も含め、参加者がそれらの器具を使い自由に体を動かしながら交流ができるようにしている。参加者からは「わが子が、これほど帰りたがらないで遊ぶことはめずらしい」、「ボッチャをはじめてやったけど、楽しかった」、「公共空間を有効活用できるのはいい」、「この地域にもこれだけ子どもがいることに気づいた」、「今回、町会長さんとつながれたけど実は近所にお住まいだったことがわかった」などの声が上がっている。またこの事業を契機に「消費者から当事者へ」という意識変容が起きた実施者も現れた。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

身近な場所で気軽に体を動かせる機会に対するニーズは高い

「令和2年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）」によると、「この1年間に行った運動・スポーツの実施場所」は「道路」が最も多く48%、次いで「自宅または自宅敷地内」32.8%、「公園」25.7%と、身近な場所で体を動かす人が多いことがわかる。また「この1年間に行った運動・スポーツの実施形態」については「個人で自由に」と答えた人の割合が 77.5%と最も高く、次いで「家族と」20.6%、「地域の友人と自由に」10.1%となっている。このことからも、スポーツ施設に行かずとも身近な場所で気軽に体を動かせる機会に対するニーズは高いと考えられる。しかし、各家庭では揃えられる器具も限られ、運動の種類も限られる。本事業では多様な運動のメニューがあり、さらにはたまたま通りがかった人がその場で参加することも可能である。

この取り組みが広がることで、あまり運動する習慣がない人も思わず体を動かす機会が増えると考えている。
また上記の調査は18歳以上を対象としているが、子どもに目を向けると、親の学歴や所得等による体験の格差（それによる運動能力の低下）が社会問題として浮かび上がってきている現代において、本事業はその是正にもつながると考える。

Sport in Life 2021 大賞（最優秀賞）

企業部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

biima sports（ビーマスポーツ）

受賞者

株式会社biima

所在地　東京都渋谷区大山町45-18　代々木上原ウエストビル3階　**電話**　050-3160-7070
URL　https://biima.co.jp/sports/　**E-mail**　info@biima.co.jp

取組の経緯

biima sportsは3歳～10歳に特化した「21世紀型教育の総合キッズスポーツスクール」を全国に150校舎に展開しており、下記3つを重点テーマとして運営。

①21世紀型総合スポーツプログラムの開発

解決する課題：
幼児期は様々なスポーツを総合的に実施した方が運動能力が高まりやすいことが明らかだが、この年代の総合スポーツ教育が体系されていない。

②全国のパパ・ママが家庭で子どもに運動指導ができるコンテンツの提供

解決する課題：
日本の大きな教育課題である「一次教育（家庭での教育）機会の減少」。

③21世紀型の教育ができる人材の育成

解決する課題：
日本の教育界では、指導者の育成は属人的であり体系的に行われていない。

事業の概要と特徴

概要

全国800万人以上の子どもたちを「21世紀に活躍できる人材に育てる」ことを目標にした総合キッズスポーツスクール。全国の企業・団体や自治体、幼稚園・保育園・小学校などとも連携し、独自の教育プラットフォームを構築。現在までに全国150校舎にて21世紀型教育プログラムを提供している。

特徴

①早稲田大学教授陣と最新のスポーツ科学と幼児教育論を融合したプログラムを共同開発
1年を通じて、7種類以上のスポーツを総合的に実施。

②21世紀型の教育ができる人材の育成
「スポーツ科学」「リーダーシップ論」などの研修プログラムを毎月20時間以上実施し、指導者を育成。

③全国のパパ・ママが家庭で子どもとスポーツを楽しめるエデュテイメントコンテンツの開発
「パパ・ママがスポーツの先生になる」をテーマにした親子イベントや、おうちで運動指導ができるコンテンツをオンラインで配信しています。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

ポイント①
「Education × Entertainment」のレッスンプログラムにより、「スポーツが大好きにな子ども」を育てます。biima sportsは子ども5人に1人の指導者がつく指導体制により、一人一人にあった課題の設定や成長の後押しをすることができるため、子どもが「スポーツが楽しい」と思える時間を提供しています。

ポイント②
幼児期のスポーツ人口を増やし、「運動習慣の2極化の解消」という社会課題の解決に貢献します。

企業部門　優秀賞

企業部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

第１回水戸ホーリーホックグラウンドゴルフ大会

受賞者

株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック

所在地　茨城県東茨城郡城里町小勝2268-3 城里町七会町民センター「アツマーレ」内　**電話**　0296-88-3900
URL　https://www.mito-hollyhock.net/　**E-mail**　front@mito-hollyhock.net

取組の経緯

弊社プロサッカークラブの練習拠点を提供していただいている城里町への貢献及び城里町在住者の運動機会促進を目的としてグラウンドゴルフ大会を計画。特に高齢者が活躍できる場を創出することで、地域高齢者の心身の健康増進に繋がり、継続的な運動への意欲を高めて医療費削減等、地域社会課題解決の一助になると考え実施に至った。

事業の概要と特徴

4才～91才まで137名の地域の方が参加し、また、城里町役場、社会福祉協議会、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校、弊社所属プロサッカー選手など多くのボランティアが運営に協力するなど、産官学が連携した取り組みとなった。大会翌日は、弊社Jリーグ公式戦が開催された為、スタジアムに参加者を招待。大会上位者が約3,500名の観客から拍手を受けながら表彰式が行われたことで、非日常体験を創出することができた。スポーツを"する楽しさ"と"観る楽しさ"双方を週末に体験できる取り組みとなった。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

・コロナ禍でも高齢者が安心して運動に取り組む機会を創出できること
・アンケート結果で95%超の方が継続実施を希望したこと
・プロサッカークラブの発信力を通じて集客、告知発信ができること
・運動やスポーツを"する楽しさ""観る楽しさ"両方を提供することができること

企業部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

7-9PARK（ナナキュウパーク）

受賞者

stadiums株式会社

所在地　東京都渋谷区千駄ヶ谷1-8-11-206　**電話**　03-6434-0764
URL　https://www.stadiums.co.jp/　**E-mail**　gate@stadiums.co.jp

取組の経緯

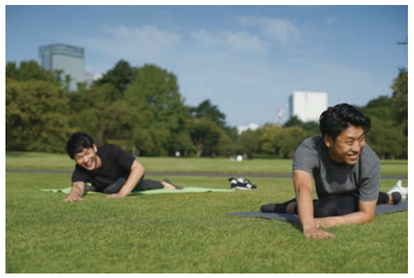
地域の健康と繋がりを創出する新たな公園活用プロジェクトとして、朝9時からの通常開園を2時間早め、7時から9時までを「7-9PARK」と名付け、早朝開園を行いました。アプリプラットフォームを活用した“公園からはじまる朝文化”を創造する、国民公園の新たな運営スタイルです。
※収益事業不可である国民公園（京都御所、皇居、新宿御苑）の民営化への挑戦・全国の国立公園での実施も見据えた挑戦となっています。

事業の概要と特徴

新宿御苑の通常開園前の7時～9時を早朝開園としてヨガやストレッチなどのアクティビティから、英語や読書会、子供向けコンテンツなどのコミュニティプログラムを開催しています。参加者は7-9PARK専用アプリをダウンロードし、参加したいイベントの予約から決済まで事前に完了。
当日はQRコードの提示のみで参加できます。イベント開催者は事業者説明会に参加し、必要事項を登録してエントリー、事業者登録。
アプリ上でイベント作成を行います（日時・内容・参加費を登録）。アプリで簡潔に予約から開催まで完了することはもちろん、誰でもコンテンツを提供することができ、地域の資産を健康の文脈で有効活用し、朝から始まる運動・スポーツの文化を創出することが可能です。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

早朝開園ということもあり、出勤前や週末の朝活として多くの方が活用しやすい時間で参加が可能です。屋外のためコロナ禍においても密にならず安心して、お子さんからご高齢の方、家族や友人が一緒に運動できる場所であること、また運動だけではなく、事業者との公園の入口付近での朝の挨拶、参加者同士のコミュニケーションによりコミュニティが生まれ、ヨガやストレッチ、ランなどが朝の「運動習慣」となりやすいことがポイントです。



企業部門　優秀賞

企業部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

職場からゼロ分！
勤務中の本格ヨガで体も頭も心もスッキリ！

受賞者

東京西サトー製品販売株式会社

所在地　東京都立川市富士見町1-3-14ダイヤモンドタワー　**電話**　042-525-4475
URL　https://nishisato.co.jp/　**E-mail**　info@nishisato.com

取組の経緯

2019年3月、社屋の建替えに伴い、一面が鏡張りの多目的ホールを併設しました。経営者が掲げる思い「互いのことを家族と思い合える会社」を反映し、従業員はもちろん地域の方も巻き込んでの健康づくりの取組に活用することが目的でした。その年の夏冬の2回に渡り、同ホールでは地域の子供たちに向けた短期体操教室を開催し、合計約50名の子供たちが参加してくれました。講師を務めたのは前職が体操指導員だった当社社員です。しかし3回目の開催はコロナで中止。以降、「コロナ禍での社員の健康づくり」に重きを置くことになりました。折しも別の社員でヨガ経験が豊富な人物が居たため、会社負担でインストラクター資格を取得してもらいました。そして2021年2月、従業員向けの社内ヨガ教室が開講しました。

事業の概要と特徴

コロナ禍で始まったヨガ教室は、定員2名まで。週2日、1日3講座（各1時間）を、社内イントラネット上の予約表で確認して名前を入れれば誰もが自由に受講できます。受講中も勤務時間とみなされ、職場では「ヨガ行ってきまーす！」「行ってらっしゃーい！」の明るい声が飛び交うようになりました。集中力が途切れがちな午後のデスクワークもヨガで心身ともにスッキリし、ミスが軽減されたとの報告がありました。普段は異なる部署で仕事をしている人同士が、ヨガを通してコミュニケーションを図ることができたのは予想外のメリットでした。また、日中は外出していて講座に参加できない営業マン向けに、朝の時間を利用して「出張ヨガ教室」も行っています。車の運転が長いくて腰が痛い‥など、営業マンに特化したメニューが考えられています。在宅勤務者や地方拠点のメンバーに向けてもZoom朝礼で体操コーナーを設けることで、週に一度はヨガの動作を導入することができています。ヨガ担当が休暇などで不在の朝礼では、前出の体操指導員が体操をおこないます。この環境で、このメンバーで出来ることを見つけ、意見を出し合い実現することができるのが当社の強みです。運動が習慣化して普段の生活でも階段をつかう、歩く、などを実践しているメンバー増えたことも大きな成果です。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

健康づくりに重きをおいている当社をもってしても「社内ヨガ教室」の開講はワクワクする嬉しいものでした。その楽しさを伝えたい!とい気持ちは会社のブログやSNSを通して発信され、地域や求職者からも注目していただけるようになりました。とはいえ、スポーツというと二の足を踏んでしまう人も少なからず居ると思います。朝礼体操のように、日々の会社生活が自然と体を動かす機会になっているのであれば、小さな取組こそがスポーツ人口拡大の底力になるのではないかと思います。

プロジェクト

誰でもいつでも個人で始めやすい野球環境への取組

受賞者

NPO法人北摂ベースボールアカデミー

所在地 大阪府箕面市船場西3-1-16-701　**電話** 090-7880-5591
URL https://hokusetsubaseball.org/　**E-mail** baseballacademy2019@gmail.com

取組の経緯

代表が専業主夫として生活する中で、子どもたちが野球を始めにくくなっていることに気づいたのがきっかけです。

保護者目線で見ると、子どもを少年野球チームに入れるには「覚悟」が必要です。毎週末の休日の予定は埋まり、ユニフォームや野球グッズなどの購入も必要です。一度始めてしまったら辞めにくい。そのため、始めるのをためらってしまいます。「野球だけはやらないでほしい」というママ友に何人も会いました。

「保護者の負担感を減らすことで野球を始める子が増えるのではないか?」と考え、入りやすく辞めやすい平日90分の野球教室をスタートしました。

事業の概要と特徴

既存の野球チームに参加するのが難しい子ども･大人･女性を対象に、誰でも参加しやすい野球教室･イベントに取り組んでいます。

特徴はどの取組も個人単位で参加できる所です。個人の都合に合わせて活動を選べるので、気軽に参加しやすくなっています。

また、空いている公共施設を有効活用している点も大きな特徴です。平日の野球場はほとんど使われていない状況でした。野球場は団体登録しないと利用できません。NPO法人で野球場を予約し、個人単位で参加できる教室･イベントを開催することで、チームに所属していない人も野球場を利用できるようになりました。使われていなかった施設に人が集まり、市民のスポーツ活動の場所として有効活用できています。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

今まで野球をはじめ多くのスポーツではチームに所属する必要があり、それが1つの壁となっていました。その壁を取り払い、個人に間口を拡げることでスポーツをやる人が増えることが期待できます。

また、取組の中でSNSやWebを活用して参加者を増やしました。ゼロから活動を始めても情報発信によって人が集まる手応えがあり、確実にスポーツ人口の増加につながっています。

プロジェクト

パトラン（パトロールランニング）

受賞者

認定NPO法人改革プロジェクト

所在地 福岡県宗像市赤間3-5-1-204　**電話** 090-2398-7390
URL https://www.kaikaku-prj.com　**E-mail** information@patorun.com

取組の経緯

パトランのきっかけは知人女性が駅から自宅へ帰宅する途中に不審者の被害にあったことでした。被害を受けて、彼女の心には大きな傷跡が残りました。同じような被害を生まないために何ができないだろうかと考え、歩いて見回る防犯パトロール活動を当時20代のメンバー数人で開始。初めは定期的な活動を実施できていたものの何も起こらないのが当たり前の防犯活動において、モチベーションを維持することは簡単ではなく、半年後には活動を維持することができなくなってしまいました。何かを根本的に変えなければ、活動を持続させることは難しいことを痛感していた時、街中を走っていたランナーの存在を目にしました。丁度、タレントの武井壮さんが公園や施設ではなく、街中をフィールドにダッシュしているということをラジオでも聞いていたので、それを参考に、ランナーが街中を走ることで見守りの目をつくろうと取り組みを始めたのが「パトラン」です。

事業の概要と特徴

パトランのビジョン:子どもや女性、お年寄りが安心して暮らせる社会の実現
ミッション:パトランを日本の文化にする

「パトラン」とは防犯パトロールとランニングを掛け合わせた造語で、地域の安全を守る新しいスタイルの防犯活動です。
一般市民が赤いTシャツを着て、夜間や下校時間帯に走りながらパトロールをします。
全国42都道府県で、約2,400人の「パトランナー」が個人もしくはチームを組んで活動しています。
活動の主体は30～40代の方たち、うち4割は女性が占めています。また中高生の子どもや高齢層の方も参加しており参加者層の幅が広いことも特徴です。
個々人の主体性を重視しているため、活動ルートや頻度、広報･PRなどもメンバーそれぞれで考え実施をします。
コロナ以降は、全国のメンバーがオンライン上で集い活動する「シンクロパトラン」も定着しました。
単なる防犯活動の範囲にとどまらず、街のことを知り、何ができるかを考え行動に移す「Take Action!」のバイタリティが、豊かな街の未来をつくるために重要であると考えています。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

1人でのランニングは強い目的と意思がないと継続は難しいのですが、パトランは人との関係性の上に成り立つ側面が強くあります。スポーツの習慣がなかった人が、誘われてパトランに参加し、いつの間にか走ることが習慣になっていたり、何か世の中のために役に立ちたい意思を持った人がパトランを通じて、ランニングするようになることもよくあります。自分のためだけでなく、誰かのために走るということや、同じ目的のために集う仲間の存在を通じて「走る楽しさ」を伝えていけるのではないかと思います。

団体部門　優秀賞

プロジェクト

神奈川県逗子市における子どもから大人まで楽しめるご当地スポーツとしてのトレイルランニング

～環境教育との融合を通じた持続可能なアウトドアスポーツ普及への取り組み」～

受賞者

FUJIO PROJECT

所在地　神奈川県逗子市久木3-13-30　**電話**　090-5305-7773

URL　https://www.fujioproject.jp　**E-mail**　fujioproject@gmail.com

取組の経緯

近年、地域振興を目的としたアウトドアスポーツ大会が全国的に盛んである。ただし、アウトドアスポーツの普及とともに、競技者のマナーや自然環境への影響等の批判も大きくなっている。この問題に対処するためには、特に子ども達に対する教育が必要であると感じており、逗子市を拠点にトレイルランニングと環境教育とを融合させた様々な取り組みを実施している。

まず、休日など学校以外での時間を有効に過ごすため、子ども達を対象にマナー普及啓発等の教育を行う「逗子ジュニアトレラン部」を実施。また、遊ぶ場所は自分達で保全するという心を育むため、「ZUSHI TRAIL WORKS」を通じて、トレイルの保全活動を地域有志と共に行っている。トレイルランニングの魅力は親子で気軽に楽しめることだ。そのため、親子で一緒に学びながら 楽しんでもらうことを意識している。「ジュニアトレイルラン」では、子どものレースとともに、子ども の保護者の部を設け、トレイルランニングを親子の共通のキーワードに心がけている。コロナ禍での「トレラン学童」はじめ、状況に応じて柔軟に対応しながら、これからも地域への定着とスポーツの普及に取り組みを続け、次世代育成を続けていく。

事業の概要と特徴

アウトドアスポーツに対する競技者のマナーや自然環境への影響等の批判に対処し、持続可能なスポーツを地域に根付かせるために、特に子供達に対する教育が必要であるという考えの下、逗子市を拠点にトレイルランニングと環境教育とを融合させた下記の様々な取り組みを実施している。

「1:ジュニアトレイルラン」「2:ZUSHI TRAIL WORKSとして地域のトレイル維持保全活動」「3:高校生へのトレイルランニング授業」「4:トレイルランニング学童」「5:逗子ジュニアトレラン部」「6:競技者として」「7:トレイルシンポジウム」「8:逗子市トレイルランニング協会」「9:ジュニア期に山を走ることの効用」「10:ご当地スポーツとして生涯スポーツとして」

「1:ジュニアトレイルラン」

現在11年目で関東近郊を中心に「山を走ること」を通じてレースだけでなくジュニア時代にアウトドスポーツに親しむ経験とマナーの普及啓発を行う。逗子市では現在6年目。全国における述べ参加人数は1万人以上。

https://www.jr-trail-running.com

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

この取り組みにおいては、自分たちで遊ぶ場所を大切にするため、保全活動を地域有志で行うことも大切にしている。こうした趣旨が認められた結果、学校での授業や保護者からも信頼を寄せられ、トレイルランニングをキーワードに、多様な活動が広がりを見せている。トレイルランニングの魅力は親子で気軽に楽しめることで、逗子は里山が多く、手軽に山に入ることができる。加えて、自身の体力や年齢に応じた楽しみ方をすれば良いため、参加のハードルも低く、今後ますます拡大していくことが予想される。

自治体部門　優秀賞

プロジェクト

あつぎサーチウォークチャレンジ地区体育振興会委員研修会（サーチウォーク）

受賞者

神奈川県厚木市教育委員会社会教育部スポーツ推進課

所在地　神奈川県厚木市中町3丁目17番17号　**電話**　046-225-2531

URL　https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/　**E-mail**　8850@city.atsugi.kanagawa.jp

取組の経緯

当市が取り組んだ「あつぎサーチウォークチャレンジ」及び「地区体育振興会委員研修会（サーチウォーク）」は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、スポーツ関連事業が相次いで中止となる中、新しい生活様式を採り入れたウォーキング競技であるサーチウォーク大会を開催することにより、市民に運動の大切さを再認識してもらい、地域や友人、家族とのコミュニティの輪を固く揺るぎないものにしていこうと試みた新事業である。

事業の概要と特徴

サーチウォークとは、神奈川県発祥で、地図に示された情報を基に目標の電柱を探し出し、見つけた電柱の合計ポイントの得点を競う、仲間と共にゲーム感覚で、いつの間にかウォーキング運動をしているという頭と体を使う競技である。

他の市主催事業が次々と中止となる中、三密を避けた屋外でのイベントができないかと模索していた頃、このサーチウォーク競技を見つけた。

そこでまずは、競技協会の協力を得ながら、スポーツ推進委員向けに研修会を実施した。

その後、レクリエーションなどを学ぶ大学生らの運営協力も得ながら、市内全域の参加者を募集したチャレンジ大会を開催した。

参加者からは「程よい運動量とゲームの難易度で楽しめた」「家族で楽しめた」「参加者同士、声を掛け合って探した」「老若男女楽しめると思う」との感想が寄せられ、何よりも参加者たちの楽しそうな笑顔が糧となり、従事した職員をはじめ、携わった関係者も達成感で満たされた。

このことを基に、身近な場所でサーチウォーク競技を行うことにより、地域コミュニティの輪を拡げる取組になるのでないかと考え、市内15地区の各公民館を拠点に活動している「地区体育振興会」によるイベントを開催できないかと検討を進めた。

現在は、この地区体育振興会委員向けの研修会を継続し、さらには地区の住民を募集してのイベントへと取組を拡げている。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

- ●頭と体を使ったゲーム感覚のスポーツとして楽しむことができる。
- ●自宅周辺の身近な場所で、家族や友人と一緒に楽しむことができる。
- ●生活道路で実施することにより、身近なものへの気づきが多く、「もっと歩いてみよう」「他のことにも参加してみよう」など、スポーツへの促進につなげることができる。

自治体部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

神奈川県藤沢市における市民全体の身体活動促進プロジェクト「ふじさわプラス・テン」

受賞者

神奈川県藤沢市

所在地　神奈川県藤沢市鵠沼2131番地の1　**電話**　0466-50-8430
URL　https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kenko-z/　**E-mail**　fj-kenko-d@city.fujisawa.lg.jp

取組の経緯

2009年より、藤沢市と慶應義塾大学は、身体活動・運動の促進に係る連携協定を締結し、それを基盤に藤沢市保健医療財団の協力のもと、身体活動・運動・スポーツの促進について取り組んできた。厚生労働省から出された「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」で国民向けのメッセージとして示された「+10（プラス・テン）：今より10分多く体を動かそう」をキーワードに、2013年より上記の3者が中心となって、生活圏における身体活動・運動・スポーツの促進プロジェクト「ふじさわプラス・テン」を進めてきた。

事業の概要と特徴

本プロジェクトは、チラシやリーフレットの配布、ホームページの活用といった情報提供や、講座・イベントの実施といった教育機会の創出、オリジナル運動プログラムの制作・周知や講習会の開催、運動グループの開始・継続支援といったコミュニティ形成促進策を通じて、多角的に働きかける手法を用いた。これらの取り組みは2013年、2015年、2018年の計3回、それぞれ市民3,000人を対象に評価が行われた。プロジェクト開始から2年後の評価では、身体活動量の増加は認められず、2015年より市民が主体となり生活圏で実施する運動・スポーツの基盤づくりと普及のための仕組みづくりに力点を置いて取り組みを進めてきた。その結果、5年後に主要ターゲットと位置付けた高齢者の身体活動時間が、20～64歳の就労世代と比較して有意に増加した（Saito他.2021）

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

本プロジェクトでは、藤沢市は「政策」、慶應義塾大学は「研究」、藤沢市保健医療財団は「実践」と、それぞれの役割を分担し、定期的に手法を改善しながら、関連機関と協働して取り組む工夫によって、成果を挙げることにつながったものと解される。一方で、本市では就労世代の身体活動量の低下や男性の肥満割合の増加などの課題がある。現在はこの成果を活用し、就労世代向けのオンライン運動プログラムを開始している。また、だれでも気軽に始められる「歩く」ことを勧める「ふじさわ歩くプロジェクト」などの取組に応用し、更なる運動・スポーツ実施者の拡大に取り組んでいきたい。

自治体部門 優秀賞

自治体部門　優秀賞

Sport in Life Award

プロジェクト

パラウェーブNAGANOプロジェクト

～（公財）日本財団パラリンピックサポートセンターと協働で取組む長野県発の未来社会プロジェクト～

受賞者

長野県

所在地　長野県長野市大字南長野字幅下692の2　**電話**　026-235-7108
URL　https://parawave.nagano.jp/　**E-mail**　parawave@pref.nagano.lg.jp

取組の経緯

・H30.6月 長野県と（公財）日本財団パラスポーツサポートセンターとの間で「スポーツを通じた共生社会の創造に向けた連携・協力に関する協定」を締結

＜協定の趣旨＞

・長野県をフィールドに、スポーツをツールとして共生社会を創造することに協力し合うことを目的とする
・互いに共生社会を実現するために企画立案、検証、評価を行い、モデルを構築し、それを全国に広めることが目標
・協働の取組に「パラウェーブNAGANO」と名称を付け、様々な事業を展開

PARAWAVE NAGANO

事業の概要と特徴

○ R3年度の主な取組

パラ学（学び）

■県オリジナル体験型授業の提供（車いすボールチャレンジ）
■県内の学校向け
■R3年度の実績
全26校、83クラス、1,689人の児童・生徒の申込み

パラウェーブ広場（体験）

■大型商業施設等でのパラスポーツ体験・展示
■一般向け
■R3年度の実績
10月実施:616人が体験

ボッチャ競技大会 パラウェーブNAGANOカップ（交流）

■障がいを問わず、誰でも参加できるボッチャの大会
■地区大会4カ所⇒県大会
■100を超えるチームが頂点を競う
■R元年度に続き2回目

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

性別や年齢、障がいのあるなしに関わらず、誰もが一緒に気軽にスポーツを楽しめる、そんなパラスポーツを長野県に広めるため、パラウェーブNAGANOを展開しています。

こうしたことを通じて多くの方に「障がい」について学び・理解してもらうことで、障がいのある人もない人も互いが人格と個性を尊重し認め合う長野県共生社会の実現を目指します。

自治体部門　優秀賞

プロジェクト

街なかピンポン

受賞者

福井県交流文化部文化・スポーツ局スポーツ課

所在地　福井県福井市大手3丁目17-1　**電話**　0776−20−0747
URL　https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/013710/index.html　**E-mail**　sports@pref.fukui.lg.jp

取組の経緯

・高校生県議会（R3.8.4）における高校生による提案（福井駅周辺でスポーツ（卓球）ができる場所が欲しい。）を受け、検討を開始
・福井駅周辺での実施を調整し、新栄商店街のポケットパーク（新栄テラス）を管理している新栄リビングが提案を受諾
・新栄テラスは人口芝生で心地の良い空間のため、高校生が頻繁に利用。高校生県議会での提案の内容とも合致
・新栄リビング代表と打合せを重ね、街なかピンポンをより楽しめるようにアイデアを出しながら実施

事業の概要と特徴

・県のキャラクター（はぴりゅう）をちりばめた創作卓球台や座って4人でできる卓球台など、普通ではなかなか体験することがないピンポンをすることが可能。

・通常、屋内で行う種目だが、開放感のある青空の下、安全性の高い芝生広場でピンポンを楽しめる。風の影響を受けるが、それも楽しみのひとつ。

・商店街の店舗に行ってラケットを借りることで、交流が生まれたり普段訪れない店舗を訪れたりする効果も見込まれる。

取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

・誰でも楽しめるピンポンを街なかで気軽にできる手軽さ
・屋内スポーツを青空と芝生の中で行う開放感
・座って4人で楽しめるピンポンなど普段できない特別感
・スポーツをするために体育館等へ行くのではなく、買い物など他の目的の合間にスポーツできる場所が身近にある点
（ショッピング×スポーツ、ランチ×スポーツのような）
上記によって、街なかピンポンが多くの県民に親しまれたので、今後、他地域への広がりが期待できる。

第一回「Sport in Lifeアワード」表彰式

Sport in Life 2021 大賞（最優秀賞）

一般社団法人TOKYO PLAY

企業部門　優秀賞

株式会社biima

株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック

stadiums株式会社

東京西サトー製品販売株式会社

団体部門　優秀賞

NPO法人北摂ベースボールアカデミー

認定NPO法人改革プロジェクト

FUJIO PROJECT

自治体部門　優秀賞

神奈川県厚木市教育委員会
社会教育部スポーツ推進課

神奈川県藤沢市

長野県

福井県交流文化部文化・スポーツ局スポーツ課